

シンポジウム「日・ASEAN対話」

日本と東南アジア諸国連合(ASEAN)の協力について話し合うシンポジウム「日・ASEAN対話」(グローバル・フォーラムなど主催、読売新聞社協力)が9月25日、都内で開かれた。ASEANプラス3(日中韓)首脳会議が2007年、「東アジア協力に関する第2共同声明」を採択したのを受け、日・ASEAN連携のあり方を探った。

東アジア共同体

「日本が中国」の
二者択一望まぬ
ヘルナンデス氏

まないASEANの対外関係ガイドライン(指針)を支持すべきだと注文。「さもなければ、ASEAN内部を一層複雑にし、東アジア共同体構築が台なしになる」と警告した。

米中関係力ギに
添谷氏

添谷芳秀・慶応大教授は、オーストラリアなどの参加を歓迎する一方、民主主義のルールを重視する日本の東アジア構想は「中国にとって必ず

フィリピンのカローリーナ・ヘルナンデス戦略開発問題研究所理事長は基調報告で、ASEANプラス3が東アジア共同体構築の基礎と位置付けた。その上で、日本は、「日本が中国か」の二者択一を望まぬ



日本とASEANの協力について議論するシンポジウム参加者(9月25日、東京・六本木の国際文化会館で)

日中の溝埋めるべき

しも心地よくない」と指摘、日中間の溝を埋めることが「決定的に重要な作業だ」とした。また、「共同体構築の過程では米中関係が鍵を握る」と述べ、日本とASEANは米中の望ましい役割を協議し、「必要な時には助言を与えるべきだ」と訴えた。

従来の経済成長率や国内総生産(GDP)に代わり、環境評価なども考慮した新しい経済・社会指標をASEAN域内で作成するよう提唱。また、「高等教育の交流推進が『アジア』のアイデンティティー(帰属意識)醸成につながる」として、卒業時に自国と留学先の大学の学位を同時取得できる「ダブルディグリー」実現の重要性を訴えた。

クリーン技術移転
途上国への支援を
リム氏

持続可能な発展

ASEAN事務局次長(カンボジア)は、東アジアの地域統合の課題として、ASEAN加盟国間で発展の格差や民主主義の問題などがあるとする一方で、「新たな合意形成がなされておき、悲観的になる必要はない」との見解を示した。

シンガポール国際問題研究所のハンク・リム研究部長は、地域で最も発展している日本には「果たすべき特別な役割」があるとして、クリーン技術などの研究や移転、制度構築で途上国を支援するよう求めた。

教育の交流推進で
アジア意識醸成を
竹内氏

竹内佐和子・京都大学
院客員教授は基調報告で、

高等教育の交流については、会場からも「単に学んで終わりの交流でいいのか。(現地)で働くことも認めれば『アジア』意識は強まる」など多くの反応が示された。

基調報告者



竹内
佐和子氏



添谷
芳秀氏



カローリーナ
・ヘルナン
デス氏



小笠原
高雪氏



リザル・
スクマ氏



ハンク・
リム氏

災害などでの協力
共通の利益になる
スクマ氏

政治・安全保障

インドネシアのリザル・スクマ戦略国際問題研究所副所長は基調報告で、米同時テロ後の世界では、日本とASEANの関係も「政治・安保協力が二次的なものではありえない」と力説。伝染病や自然災害、食糧危機、テロ、人身売買、エネルギー安保など共通の利益を有する分野を挙げた。

協力しあう可能性
長期ビジョンで構築
小笠原氏

小笠原高雪・山梨学院大学教授は、「第2共同声明」の作業計画に軍縮や大量破壊兵器拡散防止のための協力強化が盛り込まれたことの意義を強調した。

また域内での平和維持活動について、「東アジア諸国が、紛争当事国の同意を前提に協力しあう可能性を長期ビジョンとして持つべきだ」と述べた。

タイのスジット・ブンボンカーン安全保障問題研究所主任研究員は「ASEANが中国の台頭に気を取られる一方で、日本の影響力が低下している」との認識を紹介。「防衛面で米国に依存する日本と、積極的に協力を強化するにはためらいがある」と語った。